吹田市商工業振興ビジョン策定専門部会　議事録

1　開　催　日　　令和８年２月 16 日（月）

2　開 催 時 間　　午後３時 30 分から午後４時 30 分まで

3　開 催 場 所　　吹田市役所　高層棟３階　災害対策本部会議室

4　出 席 委 員　　太田会長、山下副会長、森山委員、山口委員、布施委員
　　松下委員、立石委員、樋上委員、西田委員

5　欠 席 委 員　　岡田委員

6　出 席 職 員　　脇寺部長、萩原次長、大音参事，村澤参事、
　　大村主幹、鎌田主査、松藤主査、田中主任

7　公開・非公開の別　　公開

8　傍　聴　者　　なし

9　配付資料（事前送付）
・次　　第
・案件資料
　　資料番号１　　パブリックコメント意見及び回答
　　資料番号１－２　　パブリックコメント対応案
　　資料番号２　　「吹田市商工振興ビジョン 2035」（案）

10　会議内容（発言要旨）

＜案件（１）パブリックコメントの結果及び対応について＞
　事務局から資料説明の後、以下の感想、意見がありました。

（委員）　　２ページの企業間ネットワークの形成・拡大について、大題と中身が違っていて、ネットワークというよりも誘致の話がメインになっていると思います。素案も、ネットワークよりも誘致、活性化の話になっているので、ワンクッションを入れたほうがいいと思います。うまく説明できないのですが、どうしても違和感を覚えます。

（事務局）　市としても事業所数はしっかり維持・拡大していかなければならないと思っています。それに向けて、ただ来てもらうだけではなく、しっかりネットワークを組んでいただくことによる波及的な効果が様々あるのではないかと捉えています。ネットワークを組むにしても、まずは事業所がないとネットワークもできないと思いますので、まずは産業集積の意義を書かせていただいて、次にネットワークを必要とする理由を記載しています。

（委員）　個々で動くよりも、まとまりをもってお互いの弱みを補い、強みを生かしていくということが必要だと思います。今までのように全部自分たちでやらなければならないのは限界があると。みんなで協力するというところが一番重要になっていると思います。

（会長）　違和感を抱くのはネットワークの意義が見えないということでしょうか。なぜネットワークがいるのかと。

（委員）　そうです。なぜネットワークなのかと。

（会長）　ネットワークの利益はいろいろあります。

（委員）　東大阪で言うならば、新しい製品を開発する場合、試作は東大阪の各工場で揃うというメリットがあります。吹田市の場合、ネットワークの効果が一体何かとなると大学が多いということや高度人材が豊富であるというところに絞ったほうが良い気がします。

（会長）　昔、東大阪で言われていたのは工程間分業です。一つの会社で全部の工程を持つことはできないので、それぞれが強みを生かした工程を持つ。吹田市はちょっと違うよねと。格好いい言葉で言うと、多様性とか異種の知が集まることによるイノベーションです。教科書的に言うとですが。

（事務局）　委員が抱かれている違和感は、ネットワークと書いてあるけれども内容が企業誘致のことであって、なぜネットワークに着目したかというワンクッションがないからなのではないかと思いました。現実問題として、今はどんどん事業者が集まるというような状況ではありません。吹田市の地理的な条件からいっても、どちらかというと宅地化が進んでいて、出て行かないようにしなければならない。パイがどんどん膨らんでいく状況ではないところで、産業集積をされることによって生み出されるものがあるのではないか。限られたパイの中で、事業者同士が人材交流や事業活動の中で手を組んだことによって思いもよらないようなことが新たに生まれるかもしれないという期待といったものも含めて、何かが生まれたらいいなという期待をしています。事業者さんたち個々で頑張るのではなくて、御縁があって吹田市に集まってきてくれていますので、行政も含めて一緒に何か取り組んでいけたらいいなという意味合いを広く「ネットワーク」と表現しました。

一つ目の話が産業集積と書いてあるところに若干の違和感を覚えられるのかなという印象です。違うかもしれませんが。そこは正直、だからといってどんどん産業が衰退していくような表現は違うと思いますし、実際に集まってきて欲しいのはもちろんで、そこに期待しない訳ではありませんが、現実問題、吹田市のリソースの中でどのような表現ができるかなということを一生懸命考えて、この表現にしているところです。何かワンクッションとしてよい表現があればお聞きしたいと思います。

（委員）　ネットワークという言葉を使うから誤解を生んでいて、実際に言いたいことはここに書いてあるように企業間の連携の促進だと思います。それをそのまま文字にしてお題目としたほうが腑に落ちるのではないでしょうか。ネットワークという形にすると、大きな枠組みの中で連携して何かやらなければならないように思うので、そうではなくて、企業間で生まれた連携による付加価値を付けていこうというところが中身だと思うので、それをそのままもってきたほうがネットワークという言葉に引っ掛からないのではないでしょうか。ネットワークと言ってしまうから、それの大義名分を立てなければならなくなっていると思います。

（事務局）　もちろん企業誘致の目的もあります。既存の事業者同士が連携することによって生み出されるイノベーションという話は基本方針Ｉでしています。とはいえ、限られたリソース、パイの中ではありますが、外部から吹田市に立地して欲しいなという、そこのニュアンスも失いたくないというところもあります。

（委員）　企業誘致にこだわっているが、現実的に誘致する場所はあるのでしょうか。出て行くのを何とか止めることにも重点を置いているのでしょうか。

（事務局）　それはもちろんここにも書かせていただいた通り、大切にしていかなければならないと認識しています。

（会長）　その辺りを踏まえて、書いていただければと思います。

＜案件（２）「吹田市商工振興ビジョン 2035」（案）について＞
事務局から資料説明の後、以下の感想、意見がありました。

（会長）　これはデザインを含めて、このままですか。

（事務局）　デザインの色味は少し修正したいと思っています。１章から３章まで、社会経済動向をまとめたり、施策検証をしたりしたところはオレンジ色にして、2035 の根幹の部分、第４章以降については青色で統一したいと考えています。表紙のデザインは白地に青文字で書く予定です。

（委員）　10 年前の 2025 年も青い字ではありませんでしたか。

（事務局）　青い字です。表紙は無地にする予定です。以前の表紙には吹田市を上空から写した画像を使用していました。

（委員）　配布はいつですか。

（事務局）　今のところ３月 25 日納品の予定です。遅くとも３月末までには配布できると思います。

（委員）　用語説明に、労働生産性と付加価値の意味について書いていただいたほうがいいと思います。国もそれで動いています。意外と北摂は労働生産性が低いのだなと改めて思いました。大阪府全体よりも下です。だからこういう施策だよという形で持っていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

（事務局）　文言を追加する方向で検討いたします。

（委員）　企業規模が大きいほど労働生産性は高まります。企業規模が小さいところほど労働生産性は低く出てきます。

（事務局）　企業間ネットワークのところで、しっかり回答ができていませんでしたが、我々の思いとしては、企業間連携というところが当然スタートで、二社間の連携が取引関係なのかというところもあると思いますが、我々がネットワークという文言で表現したかったのは、連携の先にある広がりや可能性です。当然、多様な企業が集積して、いろいろな考え方があって、そこでイノベーションが生まれます。そのためには産業集積という視点は絶対外せないだろうというところです。
後は地域社会の中での企業の役割についても、この先５年、10 年後は今の状態とは恐らく変わっているだろうという中で、地域社会の中で課題解決するところに当然ビジネスチャンスも生まれてくるだろうし、その時の企業間の関係性も恐らく今よりも有機的なものになっているのではないかなと思います。具体的にどうなっているかという将来を予測できない中でも、可能性的なところ、基本方針なのである程度大きな視点で、先を見据えた方向性をお示ししたかったというところで、今回ネットワークという言葉を使っています。御意見は真摯に受け止めながら、表現の部分で、我々の思いも乗せていきたいというのが事務局としての思いです。

（会長）　そこでおっしゃるのは企業だけ、大学だけではありませんね。大学や地域のコミュニティ、いろいろな方々が相まって会話したり、つながり合ったりすることで新しい産業なりイノベーションが起こる可能性のある土壌作りをしたいと。こういう理解ですよね。

（事務局）　そうです。

（会長）　企業間という言葉がよくないのかもしれません。

（事務局）　産業振興施策ですので、その環境がある中での企業の関係性を表現しました。そういう意味では、必ずしも適切ではないのかもしれません。

（委員）　６ページ、③人口移動の状況について、「市内への流入人口に比べ、市外への流出人口のほうが多く、昼間人口が常住の夜間人口よりも少ないためです」とありますが、他の表の説明と比べて、ここだけ表現が違っています。「昼夜間人口比率は 100％を下回っています」に対して言い訳がましく書かれているように思います。

（委員）　住宅都市という性格上、ほとんどの人が大阪市内に働きに行くためだと思います。大学生がいるので、もっと昼間人口が多くてもいいはずですが、その効果が打ち消されているというのが現実です。多分、大学生の半分ぐらいは吹田市以外に住んでいると思います。そういう意味では住宅都市化が進展してきていることだと思います。

（会長）　今日、お示ししているのは、今まで議論してきた内容を踏まえてまとめていただいたものですが、当然、まだ充分にまとまりきっていないところもあるのかもしれません。ぜひ御指摘いただければと思います。もし御意見がないということであれば、あとは事務局と会長一任としてお預かりし、今日いただいた御意見をふまえながら調整し、対応していきたいと考えております。ぜひともここだけはということがありましたら、今日最後の会議ですので、御発言いただきたいと思っています。
本日、懸念点を含めていくつかの御意見を頂戴いたしましたので、事務局と打ち合わせしながら、最終的には事務局と会長で調整をさせていただきたいと思っています。
これで本日御用意した議題は終わりですが、事務局から何かございますか。

（事務局）　もう一度、事務局のほうで再度読み直し、修正を加え、２月末ぐらいには原稿を固め、会長とのやり取りを踏まえた上で印刷に移っていきたいと思います。先ほどお伝えしたように３月 25 日頃に納品の予定ですので、３月末ぐらいには皆さまのお手元に届くように送付させていただきたいと思っています。

（終了）